

【熊本 S.J.C.D.例会 抄録】

演 題 EMD®に骨補填材を併用し
歯周組織再生療法を行った一症例

演者名 陶山 新吾

日 付 2011年1月25日

keyword

- 1.歯周組織再生療法
- 2.エムドゲイン® (EMD®)
- 3.骨補填材

抄 録

歯周病により生じる骨欠損は 水平性、垂直性、この二つが混在する複合型に分類できる。これらの骨欠損に対して、歯周基本治療を行っても原因因子を除去できない場合、歯周外科治療を行うことがある。歯周外科治療には、①組織付着療法、②歯周組織再生療法、③切除療法、歯肉・歯槽粘膜の形態的安定をはかるために行われる④歯周形成手術がある。(日本歯周病学会 歯周病の検査・診断・治療計画の指針 2008)

去年は切除療法（歯肉弁根尖側移動術）にて歯槽骨の形態修正行った症例を発表した。

今回は、2008年初診、67歳、女性、重度慢性歯周炎の患者さんについて発表する。初期治療終了後、垂直性骨欠損が存在しプロービングポケットデプスが残存していたため歯周外科処置を行うこととした。患者さんの経済的事情により、21, 27, 36 の3カ所には EMD®に骨補填材を併用した歯周組織再生療法、17, 47 の2カ所には自家骨移植術を行った。術後約1年と決して長いとはいえないが、経過を報告する。

今回行った手技について、また今後5年、10年と安定した歯周組織を維持するために必要なことなど、諸先生方のご意見、ご指導宜しくお願い致します。